

那須塩原市在宅医療促進広報誌

在宅医療

interviews



ご自由にお持ちください

在宅医療を深く知る



在宅医療を深く知る

道程

在宅医療の世界を皆さまにご理解いただくための広報誌の第3号です。この地域で在宅医療に取り組まれている方々にお話を伺いました。仕事のことからプライベートまで詳細に語って下さいました。

―医師になるまでの道のりは

「福島県白河市で生まれました。3人兄弟の末っ子だったので甘えん坊でした。4歳の頃に那須町に引っ越してきました。高校は黒磯高校で最初の頃は部活を転々とし、最後の頃には受験勉強に専念しました。家業は農業で医師の家系ではないのですが、父親が医師になるのがよいのではないかと勧めてくれたのと、ひどい喘息で入院を繰り返していた母親をいざれ自分が診てあげられたら良いなと思い医師になるうと決めました。無事に埼玉医科大学に入学できましたが、私立だったので金銭面では親に苦労をかけた。」

―医師になられてからの道のりは

「卒業後は、尊敬できる先生がいらっしゃることと教育環境がよさそうだったことから糖尿病を専門とする医局に入りました。勤務先が出身大学の医療圏内であり住みやすかったので、ずっと埼玉県で働いていこうとも思っていました。しかし、医師になって10年位たった頃に母親の体調が悪くなったのでこちらに帰ってくることにしました。母親を診ることができたので帰ってきて良かったと思っています。帰ってから、まず国立塩原温泉病院（現、栃木県医師会塩原温泉病院）に1年勤務し、その後、救急医療を学びたいと思い白河病院で勤務しました。その後平成9年にこのクリニックを開業して現在に至ります。」

―開業してからは順調でしたか

「開業にあたっては住まいのある那須町に近くて、患者さんが集まりやすい所が良いと思い、知り合いが持っていた共墾社の土地を譲っていただきました。内科の私と整形外科医の2人で開業しました。一ヶ所に2つの診療科があるという便利さからか最初の割に多くの患者さんに受診して頂けました。最初は忙しさに

戸惑いもありました。勤務医時代と比べて、開業してからの方が同級生や近所の方などがよく頼ってくれるようになったのでとてもやりがいを感じています。」

契機

―在宅医療をはじめたきっかけは

「実はつい最近になり取り組みはじめました。以前から自分が受け持っていて外来に通院できなくなった患者さんに関しては訪問してさしあげられればと思っていました。外来診療の忙しさから踏み切れないところがありました。最近になり非常勤の医師が外来診療を担当するようになったことや、外来診療の時間を短くしたのもあってゆとりができてきたことから思い切って訪問診療をはじめました。」



渡邊 敏郎

わたなべ としろう

医師

なすのクリニック

福島県白河市出身。埼玉医科大学を卒業後に埼玉県、栃木県、福島県の医療機関に勤務した後、平成9年に共墾社になすのクリニックを開業。在宅医療の必要性を感じ、平成30年から取り組み始めた。

在宅医療を深く知る



「在宅医療をはじめるとは、あたって不安はありませんでしたか」

「訪問しはじめるにあたって知らない知識もたくさんあったので、平成30年6月にできた那須地区在宅医療・介護連携支援センターに相談に行きました。私一人だけで患者を支えるのではなく、他の医療機関や在宅医療を専門とする医師に協力をあおげること、在宅医療を支える訪問看護師などの多職種連携の仕組み、診療報酬や記録などのルール、介護保険の制度等を詳しく教えていただけたので、割とスムーズに始めることができました。」



渡邊先生が在宅医療をはじめるとにあたって相談に出向いた那須地区在宅医療・介護連携支援センター。市内黒磯幸町に平成30年に開設されました。



気さくな笑顔で楽しく会話をしながら丁寧に診察にあたられていました。

「はじめての在宅医療はどんな患者さんですか」

「初心者なので、まずは看取りの時期ではなく病状が安定しているクリニックの近隣の方から担当したいなど思っていました。そんな中、私の自宅の近所の方で、体力が弱り外来に通いにくくなったので訪問をしてもらえないかとご家族から相談を受けました。家族の様子もわかっていたので、はじめてには丁度良いかと思いついて訪問をはじめました。外来診療が終わった後の夕方、家へ帰りがけに一人で訪問をしています。これを機に訪問用の診療バックを購入しました。外来で担当している患者さんで通院が難しくなった方にこちらから声をかけながら徐々に件数を増やしていきたいと思っています。」

「他職種と連携はされていますか」

「在宅医療はもちろんのこと、外来で担当している患者さんについてもケアマネジャーさんと密に情報交換をできればよいと思います。診察時には服薬やインシュリンの管理をしつかりできているとおっしゃられている方も実は不確かな場合も多いですし、家族が血圧などの情報を持つてくることもあるけれども、在宅での状況を専門職間で直接やり取りし、共有できればよりよい診療やケアに繋がりますよね。それに際しては、患者さんを担当しているケアマネジャーさんが簡単に分かる仕組みがあるとよいと思います。私への連絡手段は電話が良いです。電話に出られない場合もありますが、時間を改めて対応させていただきます。」



休みの日は家の広大な土地や庭の手入れに精を出しているそうです。

「プライベートの過ごし方について教えてください」

「3人兄弟の末っ子ですが、兄はオーストラリアに住んでいて姉は結婚後近くで美容師をしています。自分が両親に一番苦労をかけたので実家に入りました。やめてはしまったけれども元々が農家なので土地が広く、手入れをしないとすぐに荒れ放題となってしまうので、春から夏にかけての休日は庭の手入れに追われています。ちよつとした連休には妻と旅行に出かけることもあります。他には医師仲間や友人とゴルフを楽しんでいます。私の長男は医師になりました。呼吸器が専門で今は37歳です。いずれはこちらに帰ってきたいと思っているみたいなので、今から一緒に仕事ができることを楽しみにしています。」



なすのクリニック

那須塩原市共墾社83-24

0287-60-5211

<http://hakuei-kai.sakura.ne.jp/nasuno/index.html>

道程

―歯科医師になるまでの道のりは

「千葉県の市原市で生まれ育ちました。大学は住まいの近くの松戸市にあるという理由から日本大学松戸歯学部を選びました。今はもう違うのかもしれないけれども、当時はバンカラ（言動・行動などが荒々しい様）な校風で豪快な先生が多く、校内での挨拶はいつも『押忍!』でした。学内実習の試験で

合格した際には、担当の先生から『よくやったな!』と合格のハンコをおでこに押されたのを覚えています。現在であればパウハラと言われかねないと思いますが、私はそんな雰囲気が好きだったので喜んで『ありがとうございました!』と応じていました。勉強と並行してワンダーフォーゲル部でも活動しました。その頃はいつも山に出かけていましたが、今は登ることはないです。とても楽しく充実した大学生活でした。」

―歯科医師となつてからの道のりは

「大学を卒業してからは、主に麻酔について勉強をしていました。数年後、勤務していた病院が倒産してしまいました。思案の末、開業するしかないかと思ひ那須塩原市に今の歯科医院を開設しました。」

在宅

―在宅医療に取り組みはじめたきっかけは

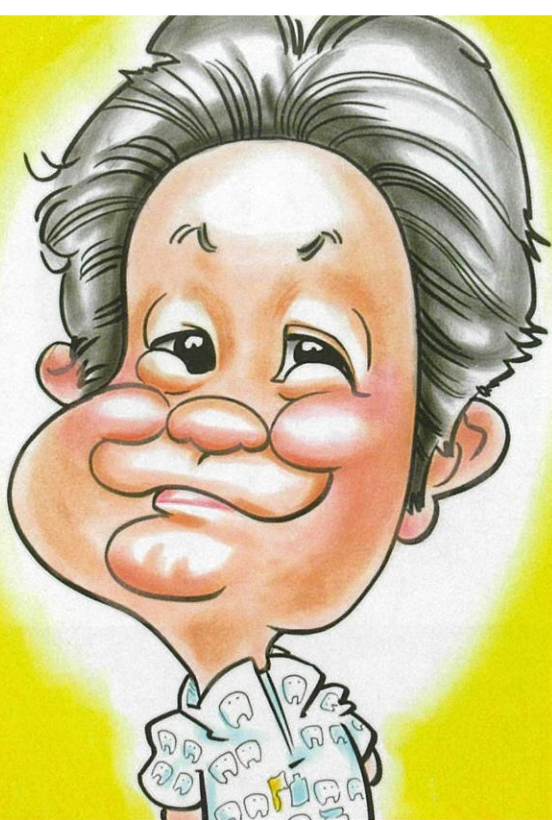
「30年くらい前から取り組んでいます。その頃は、訪問歯科診療という考え方が無い時代でした。はじめての患者さんは病気のために外来に通えなくなつた方でした。悩んだご家族から直接相談を受けて訪問することになりました。お互いに顔見知りだったのでスムーズに診療ができ、患者さんもよく来てくれたねと喜んでいただけたことを今でも思い出します。」

―現在は何件訪問していますか

「主に栃木県歯科医師会の訪問歯科診療連携室が相談を受け、そこから依頼がある都度訪問をしています。現時点では定期的には個人宅への訪問はしていませんが、さくらハウスとつばきハウスという2カ所の入所施設へ訪問して診療をしています。どちらの施設のスタッフさんもととても協力的で、治療

―在宅医療における歯科の課題は

「歯科以外の病院や診療所に外来で通われている方のお宅には訪問歯科診療ができないルールになっています。また、訪問歯科診療のための治療機器を取り揃えてはいますが、クリニックなどの充実した環境と比べてどうしても十分には治療ができません。なので可能な限り在宅医療が必要な要介護や寝たきりにならないように若いうちから歯や口の健康を保つよう取り組んでいただきたいと思います。」



馬渡歯科医院

まわたり
りょうじ
馬渡 亮司

歯科医師



千葉県市原市出身。千葉県の日本大学松戸歯学部を卒業後、数カ所の医療機関にて研修した後に旧黒磯市にて馬渡歯科医院を開業。療に従事している。

在宅医療を深く知る



訪問先のつばきハウスでの治療の一場面です。ここやかかつ真剣に治療にあたられていました。

予防

「口の健康と寝たきりにはどのような関係があるのでしょうか。」

「歯周病などの治療や適切なケアをすることなく放置するということは傷口にばい菌を張り付けているのと同じような事です。不潔な歯肉から血管内にはばい菌が入り込みやすく、口の問題だけにとどまらず心筋梗塞や脳梗塞などの血管の病気や糖尿病の悪化を引き起こす原因ともなります。また嚙む力や残っている歯の本数等の食べる力と認知症の発症には深い関係がありますので歯をしっかりと残すことや、嚙む力を維持することはとても大切です。我々も市と協力しながら予防の取り組みをすすめていければと考えています。」



診療のための器具を取りそろえた訪問セット。様々な機材がとりそろえてありました。



口の健康を保つことの重要性について資料を用いて熱心にお話しいただきました。

具体的には、那須塩原市の歯科検診の受診率は9〜11%と低いのが現状です。どの病気でもそうですが、口腔の問題についても早期に異常を見つけ対応することが重要ですので受診率を高める必要があります。高齢者が集まるサロンや介護予防グループなどで口腔状態のチェックや予防の講話、検診の案内などをするのも良いのではないかと思います。栃木県では歯科衛生士を高齢者団体に派遣する仕組みもありますので、今後検討しながら進めていければと思っています。2025年には団塊の世代が75歳となり高齢者の数が増えます。われわれもそれを他人事と思わず健康を保つために取り組んでいきたいです。」

余暇

「プライベートの過ごし方は」

「自分自身の健康を保つために週に数回スポーツジムに通っています。以前腰痛があったのですが、ジムのスタジオでピラティス（体の柔軟性と支える力を高めるための運動）に取り組みはじめたところたちどころに治りました。皆さんにもぜひお勧めしたいです。ゴルフにも友人などと誘い合わせて年に数回いきます。スコアは100打前後なので胸を張って趣味とはいいいくのですが、自然に囲まれながら楽しくプレーしています。その他、絵を描くことも好きで続けています。日常の風景や家族との思い出、旅先での出来事な

スコアは100打前後なので胸を張って趣味とはいいいくのですが、自然に囲まれながら楽しくプレーしています。その他、絵を描くことも好きで続けています。日常の風景や家族との思い出、旅先での出来事な



思い出深い出来事や日常の一場面をイラストとして記録しているそうです。



安全運転をモットーとし30年間の無事故・無違反の表彰を受けたそうです。



馬渡歯科医院

高林1201-23

0287-68-1356

どをよく描いています。あと、自動車の運転には自信があります。4年前には無事故無違反で交通安全協会から表彰状をもらいました。とても誇らしい気持ちとなり今でも額にいられて飾っています。」

道程

「なぜ看護師をめざしたのですか」

「小学生の頃に同居していた祖母が病気をしました。田舎だったので入院する事なく4日程在宅で療養し亡くなりました。その時は痰をふき取ること位しかできなかったのですが強く記憶に残っています。高校生になり将来の進路を決める時、祖母と同じような境遇の方の役に立てる仕事であることと、本当は看護師になりたかった母親の勧めもあり看護師になりました。」

やました

すみこ

山下 寿美子

看護師

ほほえみ訪問看護ステーション



「看護師となってからの道のりは」

「看護学校を卒業してからは大学病院で勤めていました。大きな組織の一員として働く中で、那須在住の医師で作家でもある見川泰山先生のコラムや本を読み、那須の自然やとりまく人々に興味を持ちました。結婚を機に奇遇にも栃木県に転居しました。今度は見川医院のような診療所で働きたいと思いましたので、自宅近くの柄沢医院に勤めました。まさに『田舎の診療所』といった感じで忙しくも楽しく仕事を

することができました。そんな中、見川先生にもお会いすることができとても感激しました。ここに勤めて良かったと感じた瞬間でした。」

在宅

「訪問看護をはじめたきっかけは」

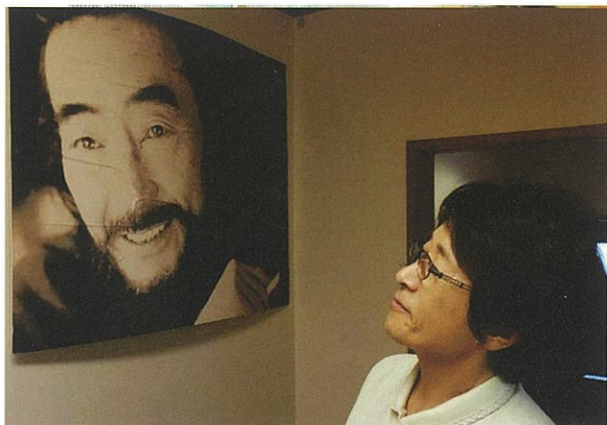
「子育て中は11年育児に専念しました。下の子供が小学校に入学し手がからなくなつた時期に再度看護師として菅間記念病院に勤めはじめました。訪問看護に携わりたい希望があつたので、第1回栃木県訪問看護師養成講習を受講しました。その頃は介護保険制度がはじまる前でしたので医療保険での訪問看護でした。その後、他の訪問看護ステーションで勤務した後に、自分の体調不良もあり一度は職を離れましたが、ご縁があり再度菅間記念病院に勤め、病棟勤務の後に今のほほえみ訪問看護ステーションに配属となり管理者を11年しています。」

「思い出にのこっているエピソードはありますか」

「訪問看護を始めたばかりの頃、車いすを押すのも難しいような田舎に住んでいる方を担当しました。体が不自由になり、手足も固まってしまつていて寝たきりの状態でした。ある日その方に『何かしてみたいことはある?』と

「訪問看護はやりがいがありますか」

「体調は万全ではない時もありますが患者さんを前にすると体が自然に動いてしまいます。今までの人生の中でも訪問看護という仕事が自分を支えてくれました。長いキャリアの最後の仕事として訪問看護をさせていただき大変幸せなことだと感謝しています。」



訪問看護師を志すきっかけとなった見川医院で一枚。

山形県出身。山形県にて看護師の資格を取得後、地元の大学病院にて勤務。結婚を機に栃木県黒磯市に転居。診療所などでの勤務の後に第一回栃木県訪問看護師養成講習を受講し、訪問看護に携わる。

在宅医療を深く知る

「どのような方が訪問看護を利用されていますか」

「事業所により特色は異なると思いますが、私の所属するほほえみ訪問看護ステーションでは、脳梗塞や心不全などの慢性疾患や、難病などを持ちながら在宅で療養される方が多く利用されています。最近では高齢化の影響から、主なご病気のほかに認知症の方が増えています。癌の末期の方もいらっやいます。」

「訪問看護の業務内容を教えてください」

「病状が安定している方の場合には、体調を確認しながら医師の指示に基づいて点滴、吸引、経管栄養、創傷処置、チューブ交換等の医療ケアを行います。ステーションにリハビリスタッフが所属しているので生活に必要な機能の維持・改善に向けた機能訓練等も行います。」



「看取りの時期にはどのように対応していますか」

「看取り時期には24時間の対応が必要となります。急な対応も多いので主治医と密に連絡を取れる体制を確保しています。多くの場合一次対応を私達が行いその状況に応じて医師に対応して頂きます。今はステーションのスタッフ全員が看取り対応ができる体制が整っています。看取り時期の他にも病気の重症度が高い方や難病など、医療依存度が高い方に対しては、スタッフ全員で相談し合い、協力しながら看護を提供しています。」

「在宅医療における課題は」

「訪問看護の質の向上のための教育が一番の課題と考えます。そのためには自己学習以外の研修会参加等の時間の確保が必要です。また、緊急時や夜間の電話相談や訪問もできるだけ丁寧に対応していますが、医療者も自分の家庭や生活があります。負担が多すぎる状況ではなかなか在宅医療に従事するスタッフは増えていくのではないのでしょうか。今後、那須塩原市の在宅医

療を広めていくためには、利用者さんのことだけではなく、医療従事者の負担を軽減し、安心して生活できる環境を整える工夫も必要だと思います。」

余暇

「プライベートの過ごし方は」

「もう少し若かった頃はよく山歩きに出かけていました。今は家族と温泉に旅行にいきのんびり過ごすことが息抜きです。孫と過ごすことも癒しの時間です。手芸や草花の世話をすることも大好きです。しかし、今は時間の余裕がないので集めた生地を眺めながら、いつかゆつくりと手芸ができる日を楽しみにしています。でも、一番好きな時間は空や海などの自然を眺めながらぼんやりすることかな・・・。」



(左上) 愛用の訪問バッグを持って伺います。(右上) 食事・排泄の様子などを細かに聞き取ります。(右下) 血圧などをチェックし体調を把握します。(左下) ご家族や他職種と密にコミュニケーションをとり情報を共有します。



ほほえみ訪問看護ステーション
(菅間記念病院内)
大黒町2-5
0287-63-5690

<https://www.hakuai.or.jp/20care/service/hohoemi/>

在宅医療 interviews

2019年冬号

2020年 2月発行

【発行】

那須塩原市

【配布方法・配布場所】

市役所、医師会、那須地区、医療機関
介護事業所他

【配布地域】

栃木県那須塩原市・大田原市
那須町他

STAFF

◎企画・デザイン・編集・写真

那須塩原市在宅医療・介護連携推進事業
多職種連携会議

『在宅医療への関心を深める』班

磯 勝彦 歯科医師

(磯歯科医院)

黒崎 史果 医師

(管間在宅診療所)

渡邊 恵美 保健師

(地域包括支援センターさちの森)

秋葉 喜美子 看護師

(国際医療福祉大学 看護学科)

高橋 秀介 理学療法士

(管間記念病院)

鈴木 理恵子 保健師

(那須地区在宅医療・介護連携支援センター)

中山 竜司 歯科医師

(栃木県県北健康福祉センター)

◎似顔絵

ひでお

(似顔絵ボランティア)

似顔絵



今回、先生方の似顔絵を描いていた
いただいた那須塩原市在住の「ひでお」
さんです。デイサービス等で似顔絵
ボランティア活動中希望の方は下記
までご連絡ください

iroenpitu87@yahoo.co.jp

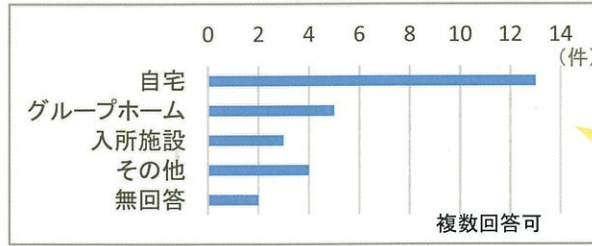
在宅医療 豆知識

在宅医療アンケート

平成31年に那須郡市医師会の医師を対象として在宅医療についてのアンケート調査を実施しました。その中で外来診療と並行して訪問診療に取り組まれている16医療施設についての結果の一部をご紹介します。



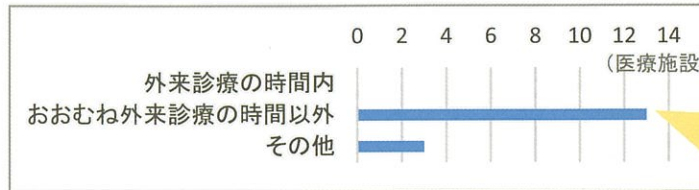
どのような場所に訪問をしているのでしょうか？



ご自宅への訪問が多いようですが、グループホームや入所施設など自宅以外へも訪問されているようです。



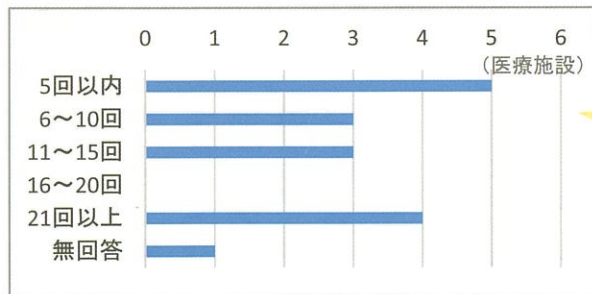
訪問する時間帯は決まっていますでしょうか？



外来診療時間内ではなく、午前と午後の外来の合間や、訪問のための時間を決めて実施しているようです。



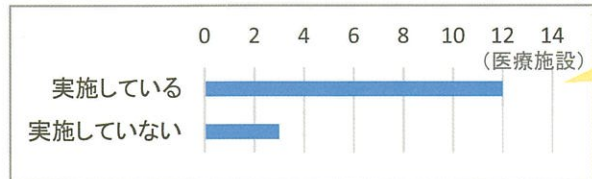
1月あたり何件くらい訪問されているのでしょうか？



約70%の医療施設で15回以内の訪問件数となりました。



看取りの時期にも対応しているのでしょうか？



多くの施設が終末期医療を実施しているようです。

在宅医療をご理解頂くための広報誌第三号を皆様にお届けすることができました。今回は、平成30年から新たに在宅医療に取り組みはじめた渡邊医師、訪問歯科診療という言葉も存在しなかった頃から取り組み続けている馬渡歯科医師、在宅医療の先駆者である故見川泰山医師に影響を受けて訪問看護に携わるようになった山下看護師の3名にご登場いただきました。それぞれの仕事のスタンス、プライベートまでよくお分かりいただきました。今年かさて、話題は変わりましたが、今年の2月に我々在宅医療への関心を深める班は医師会の研修会にて在宅医療寸劇を披露いたしました。その様子をアンプロードしましたのでぜひ那須地区在宅医療・介護連携支援センターのHP号でおいしませよう。



寸劇の動画に
アクセスできます

<https://nasu-ikairenkei.jp/>

編集後記